

# むくのきだより

4月号

平成31年4月9日

港区立赤羽幼稚園

園長

宮崎 直人



むくのき つよいき やさしいき ぐんぐんのびろ いつまでも

園長 宮崎 直人

暖かな春の日差しが嬉しい季節となりました。菜の花や森の小道のハナニラやツルニチニチソウの花々も暖かい春の光をいっぱい浴びて輝いています。

お子様のご入園、ご進級おめでとうございます。本年度は23名の新入園児を迎え、4歳児年少さくら組23名、5歳児年長ゆり組22名、全園児45名でスタートしました。子供たち一人一人、それぞれ希望に胸をふくらませて入園・進級し、希望に満ちた新年度を迎えられたことと思います。

1日に、新元号が「令和」に決まりました。安倍首相は、首相談話の中で、『万葉集』にある『初春の令月にして 気淑（よ）く風和（やわら）ぎ 梅は鏡前の粉（こ）を披（ひら）き 蘭（らん）は珮後（はいご）の香を薫（かおら）す』との文言から引用したものであり、人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つという意味が込められております。」と述べていました。記者会見を見ながら、赤羽幼稚園においても、「子供たちが優しく助け合う」中で、「人格形成の基礎」を培うことができるようにしたいと、決意を新たにしました。

昭和62年に小学校の教員になった私にとって、「昭和」、「平成」、「令和」という3つの時代を教員として過ごすことができるということは、とても感慨深いことです。

さて、本園は、教育目標を、

- 人や自然を愛し、心の豊かな子 「やさしい子」
- 好奇心をもち、進んで考え、創意工夫する子 「考える子」
- 健康で明るく、素直に言葉や態度で表現する子 「元気な子」

として、一人一人の発達の特性を踏まえ、基本的な生活習慣を身に付け、生活や遊びの中でできることを増やし、主体的に考え行動できるよう、自立に向けた教育を行います。

そのために、今年度は、以下の基本方針のもと、教育活動を展開してまいります。

## 1 社会に開かれた教育課程の実施

地域と共にある幼稚園として、近隣の教育資源を生かし、幼稚園と保護者、地域との連携、協働を図りながら地域に生きる人材育成を目的とする。

- 発達の連続性を捉えた幼稚園・小中学校の一貫した指導を行うことにより、小学校以降の生活や学習の基盤となる生きる力の基礎を身に付ける教育を行う。
- 園外活動や交流活動等、地域社会と関わる活動を通して、幼児に地域の環境に関心をもたせ、地域社会と自らとのつながりや地域に生きる一員としての意識を育む。
- 地域の方や学識者を評議員として学校評価を行い、園の教育活動を振り返り、カリキュラムマネジメントを実施し、教育の質の向上を図る。

## 2 挨拶や礼儀を重視し、規範意識の芽生えを育む

様々な生活の場面や活動を通して挨拶や礼儀について繰り返し指導し、自分から考えて行動する幼児を育むことを目的とする。

- 人との関わりや社会生活の中で必要な礼儀や挨拶、感謝の心を育む教育を継続し推進する。
- 道徳性や規範意識の芽生えを培う教育を重視し、家庭や地域と連携しながら遊びや生活を通して人との関わりを広げ、思いやりの気持ちを育む。

## 3 小学校教育との円滑な接続に向けた幼稚園教育の充実

幼稚園から小・中学校への学びの連続性を考慮し、小学校入学前教育の充実を図るために、併設する小学校との連携を重視した教育を行う。

- 園環境・自然環境を生かした体験的な活動を積極的に取り入れ、好奇心や探究心を育み、思考力の芽生えを培う教育を推進する。
- 心身の調和のとれた発達を培うために、園施設と併設小学校校庭や体育館などの施設を効果的に活用した教育を推進する。
- 個に応じた支援が必要な幼児の能力・特性を最大限に伸ばすために、一人ひとりの教育ニーズに応じた支援体制をつくり、特別支援教育の充実を図る。

教職員一同、「チーム赤羽」として、子供たちのために、全力で職務にまい進してまいります。

子供たちの健やかな成長には園と家庭との密接な連携が欠かせません。家庭や地域との絆を深め、しっかりと手を携えて進めていきたいと考えております。保護者の皆様、地域の皆様の温かいご支援とご協力を、どうぞよろしくお願いいたします。

